

2024年3月26日

第25回新しい資本主義実現会議 意見書

株式会社経営共創基盤
IGPIグループ会長 富山和彦

人的資本、労働力の供給制約の時代は、付加価値労働生産性の持続的な向上が持続的な賃金上昇と経済成長の必要条件（これが最大の課題であることはデフレ時代が終わってもまったく変わらない、むしろ鮮明化、顕在化する）→この会議で進めてきた方向性は正しい（前回提出の循環図を再掲参照）

今後の近未来予測は、

- ① 日々厳しくなる構造的人手不足で労働市場の圧力と政策的バックアップで賃金はさらに上がっていく
- ② 大企業正規、非正規（既にスポット賃金急上昇中）そして中小企業正規の順番に賃金が上昇基調に入る
- ③ 既に増えている人手不足退出、人件費倒産はますます増え続け、大中小すべての経営者は生き残りをかけた労働生産性の向上に迫られる
- ④ 経営水準の向上によって賃金上昇と生産性の向上の持続的な循環的成長サイクルに入る

三位一体の労働市場改革の加速に加えて、企業規模の大中小を問わず経営水準の向上が決定的な意味を持つ。収益力、成長率、株価、賃金上昇で分かる通り大企業の経営水準は確実に上昇しつつあり、とくにこれからは中堅、中小企業の経営水準向上が重要。

1. 経営水準の向上

経営者自身のリスクリング、事業再編（優秀な経営者への）と実効的な PMI（経営改革、CXDX）、優秀な経営者による起業

- ・事業再編 M&A（被再編企業から見るとスムーズな退出）の障害の除去：私的整理の円滑化と個人債務保証の解除
- ・事業承継税制の対象拡大（もっぱら同族で承継という時代は終わりつつある）

2. DX、テックの活用（労働生産性の分子にも分母にも効く）

鍵は使う技能の組織能力強化（DX、テック開発技能そのものよりも）の方がマクロのインパクトが大きい。特に中堅・中企業、エッセンシャルワーカー産業においてはこちらの勝負。

技能強化と強化技能による生産性向上は経営者のレベルに大きく規定される

→結局は経営レベルの向上なので、企業、産業の新陳代謝と再編、起業促進が重要。

→現在の政策の方向性で自信を持って進むべき。

労働供給制約と持続的賃金上昇の循環構造に向けて布石は打たれている

